

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

やわらぎ

日付 平成 20年 3月 4日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成13年10月に設立し、現在まで丸6年余り経過した。設立当初の時代は、認知症(当時は痴呆)のケアについて何の具体的方法もなく、認知症と云えば近くには知られないよう遠ざけるか、家の中に閉じ込めていた人が大多数だった。介護保険はまだそんなに普及していないこの時に、ガス事業を展開していた母体の社長夫人の念願でグループホームが誕生した。別の業種で、しかも福祉に関係していなかった大企業が、認知症になった方々のためにグループホームを設立し、社会(地域)の高齢者に貢献していきたいと支援に乗り出した。平成16年初めから、私達の評価機関も誕生し、このホームとのお付き合いが始まって、今回で4回目の外部評価を続けさせて頂き、このホームの状況を見守ってきた。

当初から、母体の企業は「顧客第一主義」人にやさしく、利用者に喜んでもらえる企業を目指し、グループホームも「利用者本意」お年寄りの尊厳を守り、利用者の不自由になったところのお手伝いをする。母体は、このような方針の下で育っていくホームを支援していく事を惜しまない。母体とホームが一体化した大きな枠組みはずっと貫徹されていることが、最も大切な事だと思うし、今のホームがある源である。

グループホームの運営とサービス提供の最も大切な要素は、人間(利用者)と人間(職員)の関係であり、職員が資源であると思う。当初から、ホーム長の下で活気ある職員と元気な利用者の集団で、この地域の中でグループホームの機能を果たしてきた優秀で特長のあるホームに成長してきた。

大きな社会福祉法人や医療法人の傘下にあるグループホームと違って、単体で存続するホームの場合、設立して3~4年の成長した状態を長年に亘り維持していくのは、長期的な展望と計画が整っていない限り、大変難しい要素が多い。それが職員の質と量の維持である。主たる人の変動は、どこのホームでも、サービスに大きく影響する。利用者の重症化と職員の資質の変化をどう克服していくかが、グループホーム運営の大きな課題である。このような変化を最小限に止めていこうと現在このホームでも努力中である。

「お預かりした以上は、うちにいただいた方だと思って、常に自分だったらと考えながら、できなくなった部分だけお手伝いしよう。求めている事は一人ひとり皆違う。画一的なケアは必要ない。利用者本意、その人に合わせて対応しよう。自分の子供でも孫でもないのに、寒かったら手をさすり、肩がこればたいてくれる。自分達を心配してくれるのは有難い。自分の家族も入れたいホームにしよう」と管理者・職員は気持ちを合わせて、新たなスタートを切った。これまで経験を生かしながら、以前とも異なるホームに生まれ変わろうとしている管理者・職員にエールを送りたい。

特に改善の余地があると思われる点

職員全員が心を一つにして、具体的な目標を立てて、一つずつ改良をしていながら、その効果を積み重ねていてもらいたい。それに自主評価を活用していてもらいたい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：運営理念を職員は理解し、家族にも入所時や連絡時に伝えているが、地域の人々には余り知らせていないので、これから地域との会合や運営推進会議でしっかり説明し、ホームの特長や役割について理解してもらえよう改善していきたい。</p> <p>2. 全体的に見て…：ガス事業を営む母体の社長夫人が、社会福祉に役立つような仕事をしたいという志を受けて、6年余り前にこのグループホームを設立した。母体の会社は「顧客第一主義」を経営理念としているが、グループホームの運営理念は「利用者本意」の生活を支援している。「利用者の出来なくなった部分をさりげなくお手伝いしていきましょう」をケアの方針としている。そして自分の家族も入れたいと思えるホームにしたいと考えている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：リビングルームや居室にもう少し利用者の音から馴染んでいた物を飾ったり、道具を使ったりできるよう家族とも相談していきたいと考えている。利用者が元気な時にしていた事をコミュニケーションのきっかけにしたり、生活の仕方のヒントにしたいと考えている。利用者にとっては嬉しい境遇づくりになるだろう。</p> <p>2. 全体的に見て…：ホームは普通家庭と同じような場にする重点においているので、できるだけ個人々々の意見を尊重しており、それぞれが好きなように生活してもらいたいと考えている。集団で作ったり、皆で一緒にすることも極力しないようにしているので、皆で作品を作る事もないようだ。しかし折角9人集まって生活する楽しさや生きがいもあるのではなかろうかと思うので、そのようなことも一考してみてもいいだろう。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：介護計画は、日々のケアの中に活かしていき、職員全員が共有して、利用者一人ひとりの状況や確認していく重要なツールである。定期的にチームケアをするための会議を開き、計画の遂行のモニタリングをしていけるよう改善したいと考えている。大変重要なことであると思う。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者同士で気遣い合ったり、助け合って生活している様子が色々な場面で見られた。お互いに自分が出ないところを助けて生活することはこのホームの理念にもあり、利用者と職員が生活の中に浸透しているのかなと感心して見ていた。そして利用者は、このホームで仕事をしているという場面も見せてもらった。先ず利用者が生活の主人公となり、その不足しているところを職員が補って、皆で生活しているホームの姿を確認することができた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：家族への連絡や情報提供は個々にはしっかり行っているが、家族同士が集まって交流する機会がなくなっているため、家族が出来るだけ集まる機会を作っていきたいと考えている。ホームと家族の連帯も必要と思うので是非実行してもらいたい。</p> <p>2. 全体的に見て…：母体の会社も市民生活を支える重要な産業であるので、福祉介護の事業もポリシーとしては共有出来るところも多いと思う。ホームの運営には理解し、協力を惜しまない姿勢であり、会社の一事業部門としてホームも参加している。ホームからの運営上の要望にも協力的であり、ケアサービスの向上に積極的に支援している様子も伺えた。ホーム長も変わったばかりで大変苦労してきた時期であるが、母体の支配人もホーム長や職員と一緒に安定したサービス提供ができるよう頑張っている。</p>		